

第4節 家庭・地域との連携・協力

家庭における本の読み聞かせや、園文庫など地域における読書活動は、子供が成長する過程において、読書に親しみ、習慣化するために重要な役割を担っており、親子が身近に本を感じる環境づくりを進める必要があります。

1 家庭における読書活動の推進

こども図書室の整備により、6歳以下の年齢層の利用者が一時的に増えてましたが、その後、減少しています（図表 3-19）。

常滑市では、すでにブックスタート事業への参加率は高い（図表 3-21）ですが、図書館における読み聞かせとともに、家庭における子供の読書活動をさらに推進していく必要があります。

2 地域との協力による読書活動の推進

幼児期の子供に対する読書活動は、子供の情緒性・感受性・創造性を高め、健全な心を育むために重要な役割を担っています。

すでに市内の保育園やこども園、子育て支援センター、児童育成クラブなどにおいて、図書館やボランティアによる読み聞かせなどの取組が実施されています（図表 3-23）が、園文庫の一人当たり利用冊数は年々減少傾向にあり（図表 3-24）です。幼児期は小学生や中学生の読書習慣に繋がる大切な時期ですので、今後も、図書館・ボランティア・保育園などが協力することにより、読書に親しむきっかけづくりを継続して行うことが重要だと考えます。

第5節 学校図書館との連携

文部科学省が定める「学校図書館ガイドライン」によると、学校図書館は、児童生徒の自由な読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深める「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を有しています。

各学校において、学校図書館が期待される機能を十分に発揮するためには、館長である校長のリーダーシップの下、司書教諭及び学校司書、公立図書館が、それぞれの役割を果たしつつ、互いに連携・協力し、組織的に取り組むことが重要となります。

1 学校図書館の魅力の向上

全国学校図書館協議会が行った第 69 回学校読書調査の結果によると、小学生や中学生の不読者の割合が年々増加傾向にあります（図表 6-12）。常滑市においても実利用者

数を年齢別に見ると、7歳～12歳（26.2%）、13歳～15歳（5.4%）と利用率が特に低くなっており（図表 3-19）、全国の動向と同じように、若い世代の読書離れが見られます。また中学生を対象にしたアンケート調査では8割の生徒が学校図書館に「ほとんど行かない」と回答しています（図表 7-16）。

小学生や中学生にとっては、公共図書館よりも、学校図書館の方がより身近な存在です。公立図書館の職員による支援などにより、児童生徒が読んでみたい本を手に取りやすく、また興味を持ちやすいような学校図書館の環境づくりを工夫するなど、「読書センター」機能の強化に向けた取組みを進めることも重要な課題の一つです。

2 学校図書館の活用

本来、学校図書館は、教科学習だけでなく、探求学習や特別活動（学級活動、児童・生徒会活動、学校行事、クラブ活動）などでの活用できる「学習センター」であり、子供たちが日常生活の中で興味関心を持ったことを自分で調べることは大切な学習です。

常滑市内の小・中学校に対する学校図書館に関する調査での意見にもあったように、学校司書が配置されていないことで、図書館を充実する活動にまで手が回っていないのが現状です。学校図書館のもう一つの機能である「情報センター」として、子供たちの情報リテラシーを育てる役割を担っていくためにも、学校司書の配置を検討する必要があると考えます。

第6節 特定の利用者へのサービス

今後、常滑市においても、障がい者や認知症高齢者の数が増えていきます（図表 6-11）。また外国人登録住民人口も同様に増えていきます（図表 6-10）ので、それぞれ特定の利用者の即したサービスを提供していく必要があります。

1 障がい者向けサービス

既存図書館では、障がい者駐車場や多目的トイレなどの整備、また数は少ないですが大活字本やＬＬブックの所蔵はありますが、対面朗読サービスや障がい者用資料の支出はない状況です。常滑市として、障がい者サービスに関する方針や計画を策定し、必要な機器の整備の検討や、利用者と接する機会のある図書館職員・図書館協力者・ボランティアへの研修を計画的に行うことが必要です。

2 外国人向けサービス

外国語資料は出版数も少なく、情報もあまり入ってこないため、既存の図書館では整備が進んでいません。常滑市は、国際空港を有する空の玄関である市として、総合計画の中でも「世界とつながる」まちを目標にしていますので、常滑市民の異文化理解はもとより、常滑市に住む外国人の生活支援に資するためにも、図書資料を通じた情報提供を図っていく必要もあると考えます。

第7節 図書館サービスの提供体制

常滑市内にある全ての図書館で、一律のサービスを提供することは、資源（資料や人材）の分散等の課題があります。今後、全国的にも労働人口が減る（図表 6-2）と推測されており、常滑市においても 2040（令和 22）年には人口減少に転じ、その後、総人口の減少が加速することが推測され（図表 1-7）ています。

適切な場所に資源を集約し、専門性の高いサービスの提供体制をより強固なものとする一方、予約資料の受取・返却といった身近にあることが望ましい機能については、そのサービスを受けられる場所を増やすなど、施設の位置付けを考えたサービス内容を考えることが重要です。

1 既存図書館の位置付け

新たに整備する図書館をいわゆる中央館とする場合は、常滑市のあらゆる図書館サービスの中心的役割を担うことになります。現在、青海本館が担っている、書庫機能や選書・保存については、中央館が担うこととなりますが、その際、既存の青海・南陵・こども図書室をどのように位置づけるか（図表 3-1）という課題があります。

市の中心から離れた地区における分館について、中央館に準じたサービスを提供する施設とすることも考えられますし、財政や資源の面から、身近な公民館図書室や貸出や返却だけを行うサービスポイントとすることなども考えられます。

2 分散移転による整備内容

新たに整備する図書館をいわゆる中央館とし、一定規模のものとする場合は、分散移転した際に整備した、こども図書室や青海本館の書庫、また青海公民館・南陵公民館のホール部分を閉鎖して整備した児童スペースをどうするのかといった課題もあります。既存の施設や機能をすべて維持することが理想的ではありますが、その維持には多額の費用が必要となります。

3 公民館図書室の今後のあり方

現在の青海本館及び南陵分館が入る各公民館については、今後十数年間の間に、施設の大規模改修や更新の問題が生じてきます。また、青海地区・南陵地区については、2060（令和 42）年までに現在の約半分程度まで人口が減少していくと想定されています（図表 1-7）。そのため、新たに整備する図書館の規模や立地を考えるにあたっては、各施設の老朽化の状況や市全体の公共施設マネジメント方針（図表 3-6）に基づいて、既存の図書館をどうするのかも含めた検討が必要となります。

4 図書館へのアクセス

常滑市内には、名古屋鉄道や知多バス・グリーンといったバス路線がありますが、徒歩圏内に駅やバス停がない「交通空白地」が点在しています（図表 1-3）。また、駅やバス停が徒歩圏内にはあるものの高低差が大きくアクセスしづらいなど、高齢者や障がいのある人などにとって公共交通が不便な地域「交通不便地」があります。

今後、高齢化が進み、障がいや免許証の返納などをきっかけに移動範囲が制限されることも想定されます。そのため、新たな図書館の立地場所を検討するにあたっては、どのような方法で図書館へアクセスするかも十分な検討が必要です。

第5章 学校図書館の現状

大野小学校、鬼崎北小学校、鬼崎南小学校、常滑東小学校、西浦北小学校、小鈴谷小学校の6校は図書室を2室、それ以外の7校は図書室を1室有しています。

市内13校のうち、12校は学校図書館図書標準を上回る蔵書を有していますが、常滑中学校は標準に達していません。

また、全ての学校に司書教諭が配置されていますが、学校司書は配置されていません。司書教諭は通常級や特別支援学級の担任も担っており、司書教諭とは別に図書担当教諭を置いている学校もあります。購入図書の選定や、配架・蔵書点検などの管理に十分な時間をかけられない状況も見受けられます。

国が進める「GIGAスクール構想」に基づき、児童生徒に1人1台のタブレット端末と通信ネットワーク環境が整備されたことを受け、インターネットを活用した調べ学習も進んできています。

授業における使用以外での学校図書館の開館状況は各校の事情により異なっていますが、小学校では大放課と昼放課に貸出を行う学校が多く、中学校は昼放課に貸出を行っています。朝や帰りにも貸出を行う学校もあります。貸出手続きは主に図書委員が行っています。

(単位:冊)

学校名	学校図書館 図書標準(A)	蔵書冊数 (B)	過不足 (B)-(A)
三和小学校	7,000	8,140	1,140
大野小学校	7,960	10,766	2,806
鬼崎北小学校	7,960	11,140	3,180
鬼崎南小学校	12,760	13,510	750
常滑西小学校	12,360	14,205	1,845
常滑東小学校	13,360	16,090	2,730
西浦北小学校	7,000	7,051	51
西浦南小学校	6,040	7,297	1,257
小鈴谷小学校	6,520	8,338	1,818

※蔵書冊数は、令和7年度学校経営案より

図表 5-1 小学校の学校図書館図書標準と蔵書冊数

(単位:冊)

学校名	学校図書館 図書標準(A)	蔵書冊数 (B)	過不足 (B)-(A)
青海中学校	8,480	9,875	1,395
鬼崎中学校	13,920	15,856	1,936
常滑中学校	16,480	15,441	-1,039
南陵中学校	10,160	12,777	2,617

※蔵書冊数は、令和7年度学校経営案より

図表 5-2 中学校の学校図書館図書標準と蔵書冊数

学校名	学級数	生徒数	借りられる時間帯			貸出 上限冊数	貸出期間	貸出冊数
			朝放課	大放課	昼放課			
三和小学校	10	173人	○	○	○	1冊	7日間	—
大野小学校	12	210人	—	○				4,215冊
鬼崎北小学校	12	248人	—	○				5,850冊
鬼崎南小学校	30	728人	○	○				—
常滑西小学校※1	28	648人	—	○				12,117冊
常滑東小学校	35	950人	—	○				10,726冊
西浦北小学校	10	182人	—	○				5,469冊
西浦南小学校※2	8	100人	○	○				2,518冊
小鈴谷小学校	9	137人	○	—	○	2冊	14日間	3,316冊
青海中学校	8	222人	—	—				1,223冊
鬼崎中学校※3	19	541人						—
常滑中学校	27	843人						1,079冊
南陵中学校※4	11	227人						—

※1 常滑西小学校 … 1/3/5年生は月/水曜日、2/4/6年生は火/木曜日

※2 西浦南小学校 … 貸出上限冊数は低学年2冊、高学年1冊

※3 鬼崎中学校 … 月/水/金曜日は昼放課、火/木は帰りのS T後(最終下校時刻まで)

※4 南陵中学校 … 火/木曜日は帰りのS T後10分間も利用可

図表 5-3 学校図書館の状況

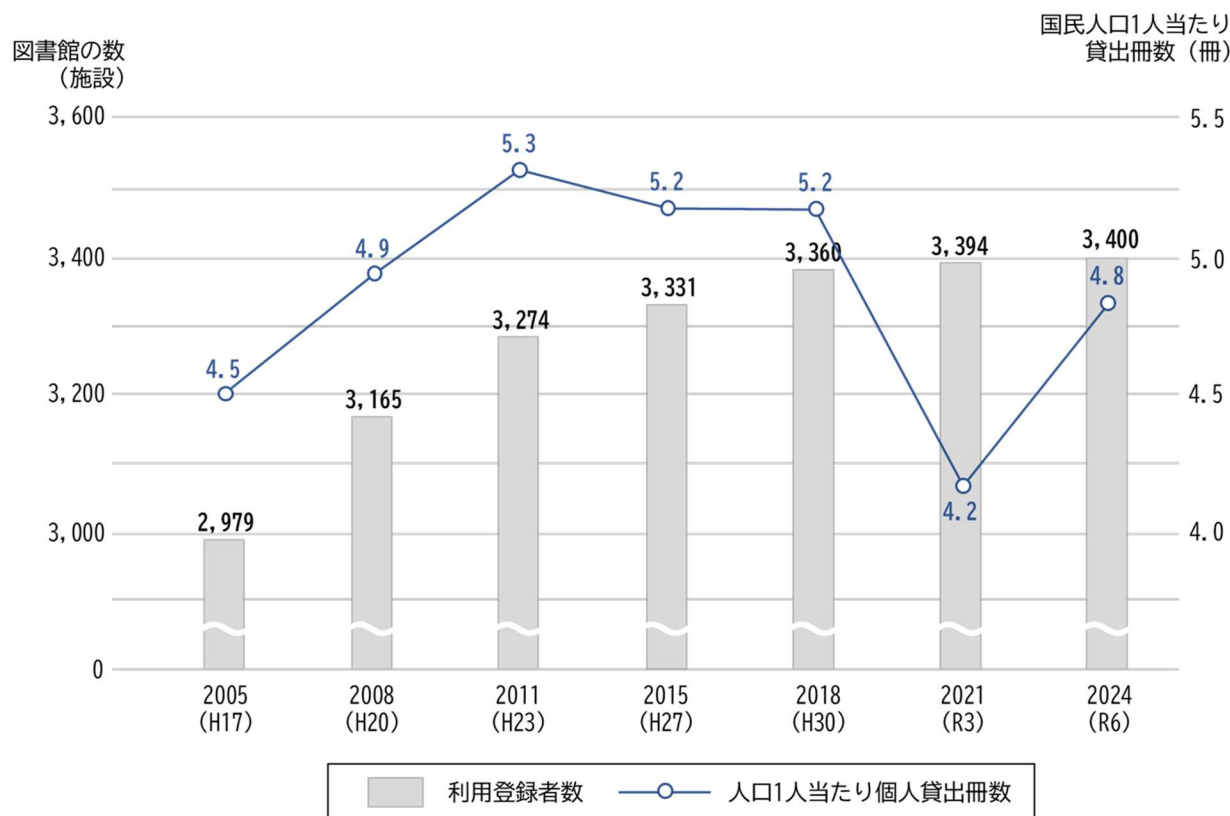
学校名	実施曜日	時間	学級文庫
三和小学校	火～金曜日	8:20～8:30	—
大野小学校	火～金曜日	8:20～8:30	—
鬼崎北小学校	毎週木曜日	8:20～8:35	○
鬼崎南小学校	火～金曜日	8:20～8:40	○
常滑西小学校	火水金曜日	8:20～8:35	○
常滑東小学校	火～金曜日	8:20～8:30	○
西浦北小学校	火～金曜日	8:20～8:30	○
西浦南小学校	毎週火曜日	8:20～8:40	○
小鈴谷小学校	火・金曜日	8:20～8:30	○
青海中学校	火～金曜日	8:15～8:30	—
鬼崎中学校	火～金曜日	8:15～8:25	○
常滑中学校	火～金曜日	8:20～8:30	○
南陵中学校	火～金曜日	8:25～8:40	○

※いずれも朝会のない月曜日は読書タイムを実施

図表 5-4 小中学校の朝読の状況

- ①都道府県における策定状況 100%（平成 18 年度末時点で策定済）
- ②市における策定状況 98.8%
- ③町村における策定状況 80.9%

なお、愛知県内の市町村における策定状況は 81.5%（全国で 37 位）です。



図表 6-15 全国の図書館施設の状況（出典：文部科学省「令和 6 年度社会教育調査」）

8 学校司書の配置等に関する提言（2025（令和 7）年 9 月）

学校司書にかかる文部科学省の調査において、常勤職員及びフルタイムの職員が配置されている学校は 17.1%しかなく、多くの学校図書館で、学校司書が限定された曜日、限定された時間しか配置されていない実態に鑑み、公益社団法人日本図書館協会が「いつでも開いている学校図書館」の実現のための提言を発信した。

- ①すべての学校に、フルタイムで一校専任の学校司書を配置すること
- ②学校司書を学校教育に関わる職員の一員として処遇すること
- ③公的な研修を制度化するなど、学校司書の資質向上を保障すること
- ④これらを可能とするため、学校司書の法的位置づけを明確にする学校図書館法の条文改正を行うこと

第2章 市民ニーズの把握

第1節 調査の実施概要

図書館のあり方について、多様な市民ニーズを把握するために、以下に示す各種調査等を実施しています（各調査等の詳細については、資料編を参照）。

青海・南陵 公民館利用者 アンケート	対 象：市内在住者の青海公民館・南陵公民館（図書館含む）利用者 調査方法：質問紙調査 調査内容：利用頻度、公民館のあり方、公民館図書室のあり方、図書館のあり方 調査時期：2024（令和6）年2月 回収状況：512票（うち公民館利用者 350票、図書館利用者 162票）
図書館非利用者 アンケート	対 象：市内在住者で常滑市立図書館を利用したことがない人 市内在住者で常滑市立図書館を利用しなくなった人 調査方法：質問紙調査 調査内容：利用頻度、各図書館の認知度、利用しない理由、どうしたら利用するようになるのか、図書館のあり方、複合化に対する考え方、ホールの規模、電子書籍の利用有無 調査時期：2024（令和6）年5月 回収状況：409票
文化施設等のあり方検討のためのアンケート調査	対 象：市内在住者 調査方法：専用フォームによるオンライン回答 調査内容：利用頻度（有無）、図書館のあり方、複合化に対する考え方、ホールの規模、電子書籍の利用有無、分散移転後の利用頻度、図書館に求めるもの、図書館の認知度、利用しない理由、どのような図書館であれば利用するのか 調査時期：2024（令和6年）6月 回収状況：814票
中学生アンケート	対 象：市内の全ての中学生 調査方法：専用フォームによるオンライン回答 調査内容：読書の好き・嫌い、学校図書館に行く頻度、勉強時間、勉強場所、図書館に行く目的 調査時期：2025（令和7年）7月 回収状況： 票
図書館市民ワークショップ	対 象：公募による応募者 32名及び無作為抽出による応募者 57名 開催日時：第1回 2025（令和7年）5月25日 第2回 2025（令和7年）6月15日 第3回 2025（令和7年）8月31日 第2回 2025（令和7年）9月21日
学校図書館に関する調査	対 象：市内の小中学校 開催日時：2025（令和7年）7月

図表 7-1 各種調査等の実施概要

6 学校図書館に関する調査

①学校図書館に関して困っていることや課題に感じていること

- ・「タブレットを使ってすぐ調べられる」「本を使って調べ学習をする機会が減っている」、「ＩＣＴ機器の活用を進めているため、積極的に本を活用する姿勢になり辛い」など、タブレット端末の導入により、学校図書館の利用自体が減っている学校が多くありました。
- ・「調べ学習を行うには少なすぎる」、「学習・情報センターとして、活用できる資料が少ない」、「調べ学習も本の冊数が足りずタブレットを利用する場面が増える」など資料の数が少ないことや、「最新の情報の書籍を買うことができない」「傷んだ本を繰り返し修繕して、何とか読める状態で貸し出している」など予算が少ないことでの課題も多くあがっています。
- ・朝の読書タイムについても「自分の本を読む生徒が多いので、わざわざ図書室に来て借りようと思わない生徒が多い」、「朝の読書タイムで、自分でノバライズ本を持参して読む児童や生徒が増えた」など学校図書館で本を借りる機会も減少しています。
- ・中学生に関しては「生徒の自由時間が短く、図書館利用の時間がとれない」といった意見もありました。

②学校図書館に関する市への要望

- ・ほぼ全ての小中学校で学校司書の配置を望む声があり、「各校に一人ずつ」という意見のほか「各校を持ち回りで」、「地域の方やボランティア」といった意見もありました。
- ・学校司書の配置を要望する理由としては「管理に追われ図書館を充実させる活動までは難しい」といった意見や「利用者が増える魅力的な図書館にしてほしい」、「貸出数が上がるような工夫を知りたい」、「学級文庫の本を定期的に交換に来てもらえると生徒が喜ぶ」といった声があがっています。

③学校図書館への支援や、授業や教科への支援など常滑市立図書館に対する要望

- ・「学習に生かすことのできるおすすめの本の紹介」や「バランスのよい本の選定の支援」など図書の購入時のアドバイスを求める声が多くあるとともに、配架の仕方や除籍の方法についての要望もありました。
- ・「ブックトークや読み聞かせ」の実施に関する意見のほか「自ら図書館に足を運ぶ児童だけでなく、すべての児童に読書の楽しさを伝える効果的な指導」についての意見もありました。